第３　問題作成部会の見解

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　英語以外の外国語については，大学入試センター試験の枠組みを受け継いだ『筆記』テストを課し，「リスニング」テストは実施しない。

○　教科としての外国語科の目標である「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき問題作成を行う。

　また，実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面，状況の設定を重視する。

○　問題作成に当たっては，CEFR等を踏まえた力を問うことをねらいとして作成する。

　その際，大学教育の基礎力を踏まえ，また，高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し，問題作成を行う。

２　各問題の出題意図と解答結果及び出題に対する反響・意見等についての見解

共通テストを導入して３年目となる今年度においては，原則として昨年度の出題を踏襲し，その問題構成についても変更を加えなかった。すなわち，全体は大問７題から構成されており，第１問から第３問で文法及び語彙の基本的な理解を問い，会話文を素材とした第４問，第５問では会話全体の流れ，発話の意図，要点の正確な把握などを多角的に問うことを目指し，読解では第６問，第７問で大意把握や精読など，文章の種類に応じた多様な読みの能力を測ることを意図した。詳細については各問題の報告を参照されたい。

出題に用いたドイツ語の総語数は，前年度よりも若干増えたが（令和３年度と同等），同時に難易度の高い語彙が減少したことで受験者にとって取り組みやすい内容となったと考える。この点について，日本独文学会ドイツ語教育部会（以下「ドイツ語教育部会」という。）から，「語数が多ければ，受験者は文脈を利用して文意をとりやすくなる利点がある」「前年度との比較で言うと，前年度は総語数が抑制され，文章量がコンパクトになった結果，語彙に頼らざるを得ず，語彙がやや難しくなっていたが，今年度は語彙数を増やすことによって難度は抑えられ，文脈で判断できるようにする工夫が見られた」というコメントを得た。また，高等学校教科担当教員（以下「教科担当教員」という。）からは，「昨年度の共通テストより１割程度使用語数が増え，第１回共通テストと同程度になったが，読みにくさや，語数が特別に増えた印象はない」というコメントを頂いた。

使用語彙に関しては，例年同様に，高等学校３年間で学ぶ範囲を中心とし，それを超えると考えられるものには注や平易な言い換えなどを利用し，受験者への過度の負担をできる限り回避するよう配慮した。熟語表現や文法項目についても，高等学校３年間の学習を踏まえて理解できるものを中心とするよう留意した。

平均点は123.80（100点満点換算値：61.90点）で，昨年の124.26点よりも若干下がったが，ほぼ同水準と見て良いであろう。

設問構成と出題形式については，「思考力・判断力・表現力等」を含め，ドイツ語を用いたコミュニケーションで問われる多様な能力を測るという目的に沿って検討を重ね決定している。なお，設問のテーマに関して，ドイツ語教育部会からは「実際のコミュニケーションで必要とされる知識やスキルがしっかりと問われており，時代に即した工夫がなされていると評価する」というコメントを得た。内容については，長文のテーマとして「ユースセンター（Jugendzentrum）で行われる衣類交換マーケット（大問４），銀婚式を迎える両親へのプレゼント（大問５），日本に交換留学生とし

て一年間暮らしたドイツ人の体験レポート（大問６），人工知能を題材にしたある小説に関する書評（大問７）など，高校生・大学生も身近に感じられるテーマが選ばれている」という評価を頂いた。今後はレベルの更なる適正化を図りたい。

問題構成について，分野別の設問数及び配点は次のとおりである。

発音・文法	第１問～第３問	19問	65点
会話・コミュニケーション	第４問～第５問	14問	70点
読解	第６問～第７問	12問	65点

第１問　第１問は主として単語レベルでの基礎的な発音，文法，語彙の知識を問う問題である。問１～問３は発音に関する問題である。問２では今回初めて，同一文中に現れる子音の発音について問うたが，ドイツ語教育部会からは「ある文脈においてそれらの語が同時に出現し得るという実際のドイツ語運用を意識した点で新しく，良問」，「難度は適切で基本的な発音の理解を問う良問」と高評価を得た。問４，問５は動詞の語形変化の問題である。問６では名詞の複数形の語尾を問うた。問７は，日常的に使用頻度の高い名詞の意味に関する知識を問う問題とした。

第２問　第２問は実際にドイツ語を運用する日常的な場面において，文の理解を前提にして個々の文法知識及び使用頻度の高い重要な語彙の知識を問う問題である。文法の知識を正確に運用できるかどうかを識別するため，基本的なものからやや難度が高いものまでを出題し，難易度のバランスを工夫した。ドイツ語教育部会からは「全体として適切な難度」，教科担当教員からは「文法事項を着実に学んだ受験者であれば正答を選ぶことができる。文法が苦手な受験者への配慮を語彙や出題に感じる」とのコメントを得た。

第３問　第３問は与えられた語を適切に配置させることで，様々な文法知識や熟語表現を多層的に問う問題である。昨年度と同様に今年度も設問数は４とした。共通テストの趣旨に鑑み，ドイツ語運用能力を総合的に問うことを目的にしている。各問のテーマは，日常的な話題から選ぶよう配慮したつもりだが，ドイツ語教育部会からは「語彙の選択は適切だが，全体的な難度はやや高め」と評価された。他方，６つの選択肢のうち５つのみを用いる出題形式については，教科担当教員から「不要な選択肢が１つあるが，問われている箇所に配慮を感じる」との評価を得た。なお，二つの空欄とも正解しないと得点を得られない点については，今後部分点を認めることも含めて検討の余地があるだろう。

第４問　第４問では，昨年度の共通テストと同様，細切れの設問ではなく一連の会話とすることにより，「日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する」場面設定を行った。高校評価でのご指摘にもあるように，「衣類交換マーケット」をテーマにしたことで，近年の教科書でよく取り上げられる衣類に関する問題を提示することができた。しかし，ドイツ語教育部会からは，「古着の交換という場面を理解するには，ドイツではFlohmarkt（フリーマーケット）のようなものがよく行われている，という予備知識も必要になると思われ，日本の若者にどれほど身近なのか，という点については少し疑問が残る」というご意見も頂いた。「高校生・大学生も身近に感じられるテーマ」選びに関して，今後の問題作成時にも引き続き検討が必要だと言えるだろう。会話問題の表現や形式に関しては，使用語彙を難しくせず，場面の切り替えをはっきりさせることで読みやすい文章とし，内容理解を問う問題を増やすことを心掛けた。ただし，「全体を見渡して解く出題が少なかった」点に関しては，今後の問題作成にあたって重く受け止めたい。

問１はauf die Idee kommenという熟語表現の意味を，文脈に合うように選択する問題である。

問２では会話の内容理解を問う。問３は会話の文脈を捉えられているかどうかを適語補充という形式で問うた。ドイツ語教育部会からご提案があったように「単一語の意味の知識だけの問題にならないよう，先行するgünstigの部分と組合せ方式にして」もよかったかもしれない。場面が転換してからは，会話文，チャット形式，ポスターの３つの形式を利用した。問４は適切な返答を選ぶ問題だが，正解である①のStänderの意味を知らない受験者にとっては消去法で解答することになり，少し難しかったかもしれない。問５は会話の文脈を捉える問題であるが，正答を導くためには文法理解も必要になるようにした。ドイツ語教育部会から「工夫された良問」との評価を頂き有難い。問６はチャットのやりとりを読んで，話題となっている服のイラストを選択する問題である。問７はポスターの「間違い探し」であるが，文脈を捉えたうえで前置詞の知識を活用しないと正答を導き出せない。問８は本文全体の内容理解に関する問題。「全体を見渡して解く出題」を狙ったが，今後の問題作成に当たっては，更に工夫を加えていきたい。

第５問　第５問は昨年度と同様，広告のイラストと会話文から構成された問題である。銀婚式を迎える両親へのプレゼントについて，３人の兄弟がインターネット広告を見ながら話し合う場面を扱った。コロナ禍でドイツへの留学が難しかったであろう受験者たちにも，ドイツ語圏における日常を感じてほしいという思いから，取り上げることに決めた場面設定である。しかしながらドイツ語教育部会から「コロナ禍で日常会話の練習機会が通常より少なかった受験者にとっては，難度が高かった可能性がある」というコメントを頂いた。今後の問題作成に当たっては，問題レベルの設定に関しても更に配慮するように心がけたい。

問１は会話の流れから発言内容を読み取る問題である。問２はエスプレッソマシン（250ユーロ）を３人で支払う場合の一人当たりの負担額を考える問題である。単なる割り算だけではなく，ドイツ語の数字表現に関しても問うように作題した。問３は 34 への適語補充問題とした。「günstigの意味の理解を試している点」に関しては，日常会話の練習機会が少なかった受験者にも配慮が必要であったかもしれない。問４は，広告文と会話文を参照して，Basispreisに含まれるものを選択する問題である。問５は前後の文脈に合うように，適切な表現を選択する問題である。高校評価で，正答以外の「他の選択肢もよく練られている」とのコメントを頂いた。問６は会話内容と合わないものを選ぶ問題である。

第６問　第６問と第７問が読解問題となっているが，それぞれの設問で用いるテクストを別の文体のもの（今次においては第６問でエッセー風の報告文，第７問で学術的な内容の記事）を用いた。これは，現実のコミュニケーションで必要になる読解力を中心に，多角的に受験者のドイツ語力を測ることを目的としているためである。

第６問については，日本の高校に留学したドイツ人の生徒が書いた報告文を題材とすることで，日本の高校生にとって身近な話題をドイツ語で読んでしっかり理解できるかを問う問題を作成した。

報告文という性質上，ある程度まで過去形を用いざるを得ないが，高等学校におけるドイツ語学習の状況を考慮しながら，必要最小限にとどめた。また，可能な限り完了形への書き換えも行ったが，難度の高い単語も使用した（本文１行目mich … bewarb，問１②sich … beworben）。ただそのような場合でも，留学に関する一連の流れ（交換留学プログラムに応募して，その後，留学中の住まいについての連絡を受け取り，それから実際に来日する）を連想すれば読み解ける文章になるようにした。

本文の内容については，話題からある程度連想できるものの，その分，正確に読み取ることができないと解けない問題になっている。問１について，高校教員から「いつ来たのかが分か

らず，夏に来たと解釈してしまった受験者もいたようだ」というご指摘を頂いたが，例えばこの点は本文３～４行目を正確に読めば正答にたどり着ける。問２から問４も，問われている内容に関する記述を探し，その箇所を丁寧に読むことで正解にたどり着けるかたちになっている。問５の正答⑥について，ドイツ語教育部会と高校教員から，登校初日からクラスメートとカラオケに行くユーリアは行動的にも見えるので「内気な性格」（schüchtern）と言えないのではないか，というご意見を頂いた。皆が違和感なく読める読解問題を作成できるよう，今後も工夫を重ねたい。

第７問　第７問では，それぞれの段落の記述内容を正確に読み取れるか，また各段落で記述されている内容から全体の内容を有機的に理解できるかを問う問題を作成した。７問のうち５問は，問いと選択肢のいずれもドイツ語にすることで，ドイツ語での表現を正確に読み取れることが前提となる形になっている。

テクストは現代のデジタル化社会を象徴するAIを主題とするものを選定し，デジタル化による社会変容に関心があるであろう受験者にとっても重要と考えて作問した。第７問全体の得点率は約57％であった。高校教員から「抽象概念を表す語彙も多く，難しいと感じる受験者もいたかもしれない」と指摘されている通り抽象概念の正確な理解が求められる設問であったが，ドイツ語教育部会からは「全体としては複雑な構文はほとんど見られず，慎重に読み進めれば内容は十分読み取れる適切な難度である」との評価を得ている。

問いと選択肢のいずれもドイツ語である問１から問５は，使用されている語彙をすべて理解できなくても，基礎的な語彙の理解から内容を読み解くことができる設問である。高校教員が指摘するように，内容の性質上やや難しい語や表現が含まれていることから，難しい印象を受けるかもしれない。一方で，ドイツ語教育部会は，丁寧な読みができれば正答にたどりつけると評価している。第６問については教育部会から，問５と似通った内容になっていることが指摘されているが，やはり数百語程度のテクストで記述できる内容は限られているためこうしたことが起こるのだと考えられる。その上で，全体の流れの有機的な連関の理解を問う設問を作るなどさらなる工夫が必要となろう。

３　ま　と　め

現行の学習指導要領においては，英語以外の外国語に関する科目は「英語に関する各科目の目標及び内容等に準じて行うもの」とされ，当該言語に応じた明確な指導目標が存在しない中，事実上共通テストが高等学校の学習目標となっている点に鑑み，問題作成部会としてはドイツ語学習者の裾野を広げるためにも，問題内容と形式，レベルとバランスに配慮しつつ，良問の作成に向けて更に努力を続けていく所存である。なお，過去10年間の受験者数・平均点（100点満点換算）の推移は以下のとおりである。

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
受験者数	147	135	147	116	109	118	116	109	108	82
平均点	77.68	72.39	65.46	64.33	68.42	76.10	73.95	59.62	62.13	61.90